

運転ボランティアたんぽぽ&御殿場市社会福祉協議会

- 所在市町村名 静岡県御殿場市
- 実施組織名 運転ボランティアたんぽぽ、御殿場市社会福祉協議会
- 市町村担当課 御殿場市長寿福祉課・社会福祉課
- 特徴

運転者や運営・事務局担当者の属性、増減とその要因

社会福祉協議会と協働で運転ボランティア入門講座を開催、運転者を募っている

- ・ 取材当時の運転者数は 52 名で、これまで増減はあるものの 50 名前後を維持している。御殿場社協が開催する運転ボランティア入門講座で運転者を募っている。
- ・ 御殿場社協の福祉車両貸出事業に付随して運転ボランティア活動を行っていたグループが独立して運転ボランティアたんぽぽとなった。現在の会長は、たんぽぽ設立メンバーで、2 代目の会長となる。一部の役員は健康上の理由で交代している。
- ・ 事務局は御殿場社協が担当、車両管理、新規利用者の登録や運転ボランティア入門講座の告知などを行っている。

利用状況の変化とその要因

利用者の介護度が上がり、利用者減が起きていると推測

- ・ 利用者は車いすの利用者を除き、自分で乗降ができる方を対象としている。運転者は申し出がない限り乗降介助等を行わない。
- ・ 地域のケアマネジャー、ヘルパーからの紹介依頼が多く、ピーク時は月に 110 件ほどの依頼をこなしていたが、ここ最近は月 50 件程度に減少している。理由としては介護度が上がり施設入居された方や亡くなられた方が増えたのではないかと推測している。

財政状況の変化とその要因

許可・登録不要の運送による無料ボランティア、収入は運転ボランティア入門講座の講師謝礼のみ

- ・ 無償ボランティアのため、市外へ輸送時のガソリン代以外、運送対価は発生しない。御殿場社協が年 1 回開催する「運転ボランティア入門講座」の講師としてたんぽぽの運転者が講義をするので、その謝礼として 5 万円が支払われている。(2020 年度より NPO かながわ福祉移動ネットワークによる「福祉車両運転者講習」を開催)

行政や社会福祉協議会等との関係、地域の反応とその要因

たんぽぽの活動から派生して御殿場市主導の買い物支援プロジェクトが始動している

- ・ 御殿場市行政担当課とは、市から御殿場社協への福祉車両貸与と毎年の輸送実績報告（本来、福祉有償運送ではないので報告不要だが実施している）以外のやり取りはないが、御殿場社協を通して御殿場市が支援する買い物支援プロジェクトのドライバーを担当することもある。
- ・ 御殿場社協は、たんぽぽの車両管理と新規利用者登録などの事務局業務を担当しているので、関係性は深い。
- ・ 御殿場社協は 2020 年度より生活支援体制整備事業の枠組みで、たんぽぽ及び市内の買い物支援プロジェクトの運転者、担い手を確保するための認定福祉車両運転者講習の開催を担当している。

見どころと課題

ボランティア輸送で地域高齢者の移動を支援、活動が行政施策の担い手確保の手助けに

- ・ 社協のボランティア事業部門から独立、社協が事務局を担い、協働している運転ボランティアグループ。
- ・ 運転ボランティア入門講座を企画、開催を通じて担い手を確保している。
- ・ 旅行やレクリエーションでボランティア同士の親睦を深め、活動の輪を広げている。
- ・ たんぽぽの活動が軸となって、市が支援する買い物支援プロジェクトの運転者が集まるなど、行政施策の手助けになっている。

担い手不足・高齢化…役員が代替わりしても意識を継続することができるか

- ・ 担い手不足の解消が課題である。運転者として登録があってもほとんど活動しない運転者もいるため、特定の運転者に業務が集中することがある。
- ・ 予約に合わせて利用者と運転者をマッチングするコーディネーターの負担も大きい。現在は会長をはじめ役員が担当することが多く「負担に感じては続けられない」という高い意識で取り組んでいるが、この意識を代替わりしても継続できるかが問題。

I. 調査概要

団体名	運転ボランティアたんぽぽ			事業形態	ボランティアグループ			
開始年次	2003年	運送形態	許可・登録不要					
予約	必要	利用者 居住地域	御殿場市内					
乗客限定	あり							
降車場所設定	あり	設定場所	生活、社会参加に必要な場所（利用申請時に社協が判断）					
居住地域と降車場所の関係	居住地域も降車場所も御殿場市内が中心。市外の場合もあり。							
運行車両情報	福祉車両3台（スロープ車2台、リフト車1台）							
運転者 情報	合計	52人	～64歳	10人	65-74歳	32人	75歳～	10人
	稼働人数（2020.3）	20人	雇用形態	無償ボランティア				
	謝礼報酬	なし						
利用形態	介助者同乗	なし	複数乗車	時々実施				
運送対価	市内無料、市外はガソリン50分を負担							
収入状況	運送対価	なし	会費収入	なし				
	補助金・助成金	あり（1位）	業務委託費	なし				
	自治体からの補助助成	なし	寄付金・協賛金	なし				
	町内自治会費	なし	自己負担金	なし				
	その他収入	なし	収入総額（直近年度）	50,000円				
運送実績（2020.6）	稼働日数	25日	利用者数	50人				
運転者 求人	実施した施策	広告等での募集、知人からの紹介・口コミ、マイカーではない車両の使用						
	効果があった施策	社協だより、市報などで年1回の運転ボランティア入門講座の参加者募集						
収支改善	実施した施策	なし						
	効果があった施策	なし						

【特記事項】

- ・ 御殿場市社会福祉協議会が事務局機能を果たして、新規利用者の受付を行っている。
- ・ 車いすの方を除いて、利用者は自分で乗降できる方が中心。基本的に運転者は介助等のサポートは行わない。介助が必要な重度の方については事前に担当ケアマネジャーから連絡があり、ヘルパーが同乗する。利用者は独居の高齢者が中心、用途は通院と買い物がほとんど。
- ・ 運転車両のうち、福祉車両（リフト車）は御殿場市からの貸与車両（キャラバン）、車検及び点検費用などの車両維持費は御殿場市社会福祉課が負担。
- ・ 運転ボランティア入門講座は、2019 年度より御殿場社協からの委託で NPO 法人かながわ福祉移動サービスネットワークによる国土交通大臣認定の「福祉車両運転者講習」が開催されるようになったことを受けて、2020 年度で終了する。
- ・ 収入総額の 50,000 円は運転ボランティア入門講座の講師謝礼として、御殿場市社会福祉協議会より支給されたものだが、2021 年度より「福祉車両運転者講習」のみとなったため、こちらの講習の講師謝礼として支給される予定。

II. 調査対象団体の沿革

1996 年 御殿場市社会福祉協議会にて福祉車両貸与事業開始

御殿場ライオンズクラブより福祉車両（軽リフト車・ホンダアクティ）の寄贈を受けたことをきっかけに福祉車両の貸与事業を開始、車両のみの貸し出しが中心で、当時は運転ボランティア組織がなかった。車両のみの貸し出しが中心だった。運転者が必要な時は御殿場社協の職員が担当していた。その後、増加する需要に対応すべく、運転ボランティアの募集、紹介も行うようになった。当初は、1 回につき 100 円の謝礼を利用者から收受していたが、市の社会福祉課より指摘があり、1997 年以降は無料に対応している。

2001 年 御殿場市より御殿場社会福祉協議会へ福祉車両の貸与開始

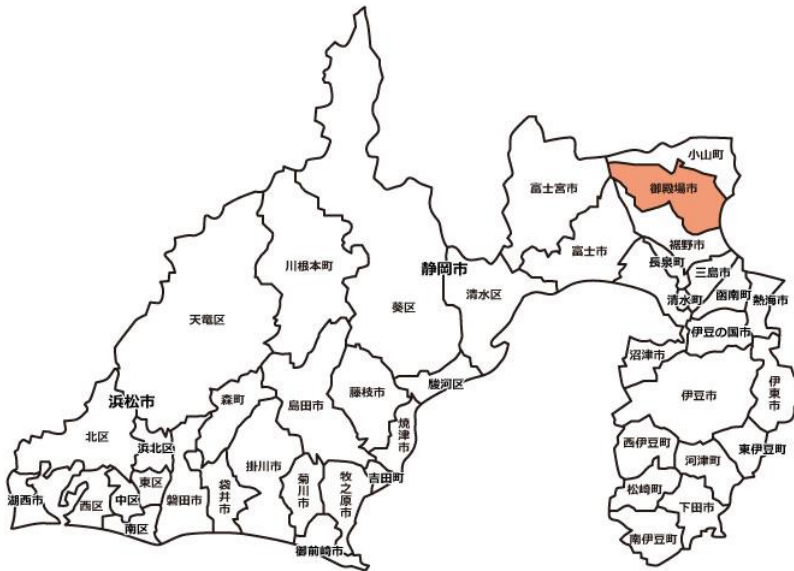
地域の福祉ネットワーク、静岡県車椅子友の会などの働きかけで、福祉車両（キャラバン・リフト車⇒2019 年に同車種へ代替）1 台を御殿場市より御殿場社協へ貸与される。

2003 年 運転ボランティアたんぽぽ 発足

御殿場社協のボランティア活動から独立して運転ボランティアたんぽぽを発足。御殿場市社会福祉協議会に事務局を置き、御殿場社協保有の福祉車両の運転者としてボランティア会員を募集。

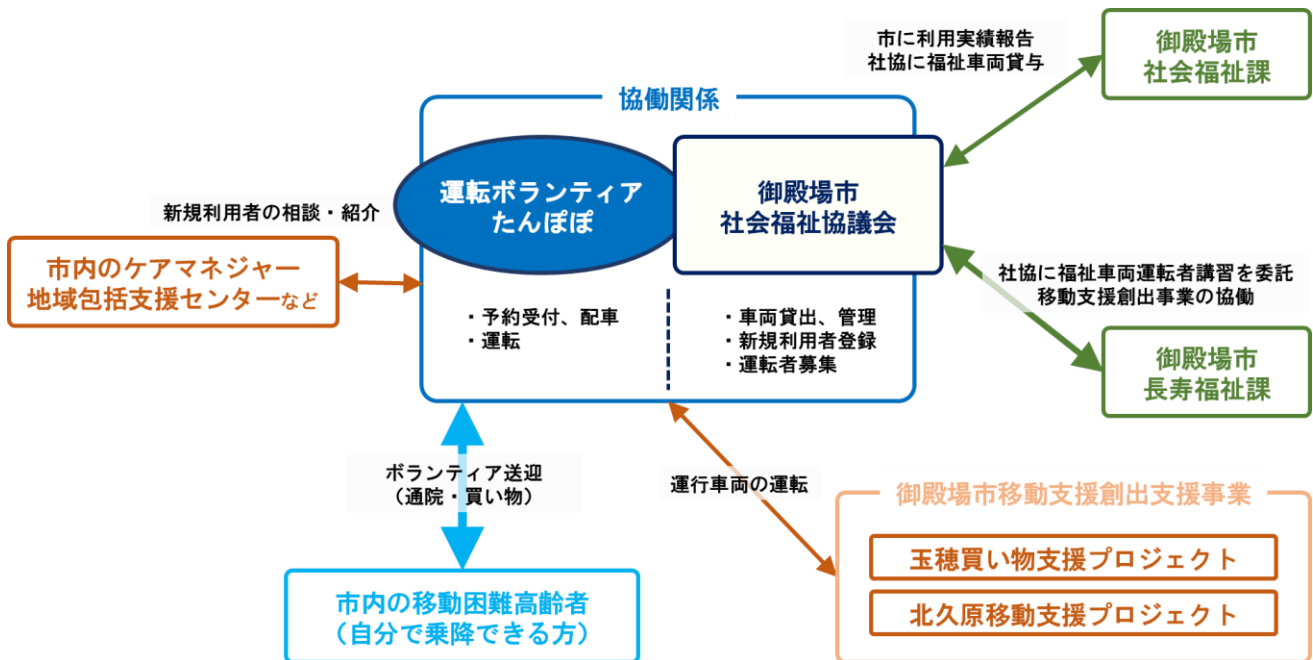
～2020 年 運転ボランティアの確保に苦慮／後継者の不在 ★サービス維持の危機

運転ボランティア登録者数は約 50 名だが、稼働する運転者が 1/3 程度となり、かつ送迎件数も減少傾向にある。稼働できる人数と日数を増やすことと並行して、登録者の確保が課題になっている。また、現会長は 76 歳で世代交代が必要だが、後継者が不在の状況で、後継者が見つかるまでは現会長が継続して職務に就かなくてはならない状況。



運転ボランティアたんぼぼ提供地域（御殿場市全域）

III. 調査対象団体の相関図



IV. ヒアリング内容

対象者	早川 孝一 様（運転ボランティアたんぼぼ 会長、運転者） 大窪 民主 様（運転ボランティアたんぼぼ 副会長、運転者） 横山 重夫 様（運転ボランティアたんぼぼ 運転者） 長山 太亮 様（社会福祉法人御殿場市社会福祉協議会 地域福祉課 主事補） 岩岡 俊峰 様（御殿場市役所 健康福祉部 長寿福祉課 課長） 宮代 志穂 様（御殿場市役所 健康福祉部 長寿福祉課 長寿福祉スタッフ 副参事） 石田 萌乃 様（御殿場市役所 健康福祉部 長寿福祉課 長寿福祉スタッフ 副主任）
ヒアリング 担当	伊藤、徳田、滝口

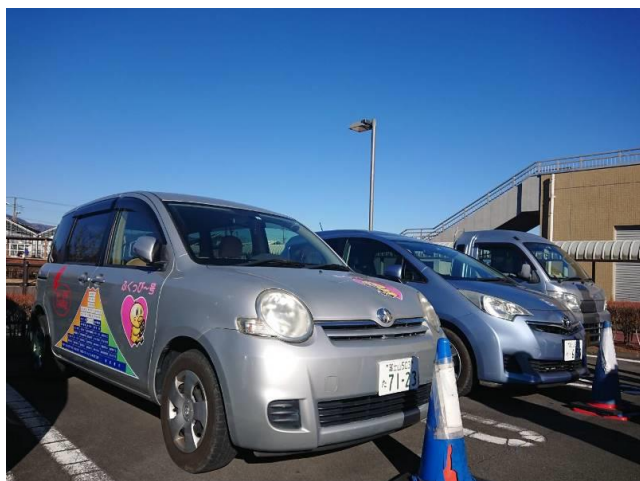
1. 運営または運行団体へのヒアリング 【早川会長・大窪副会長】

早川会長は1973年に東京都より御殿場市へ転入、長年児童福祉・障害者福祉に関わる。大窪副会長は元自衛隊員で、2020年2月まで2期8年、御殿場市議会議員を務めていた。

(1) 210名の利用者と50名の運転ボランティアを14名のコーディネーターがマッチング、活動はすべて無償ボランティア。

① 地域の商店を回り運転ボランティア入門講座を告知、地方新聞にも広告掲載して受講者（運転ボランティア登録者）を募集

- ・ 御殿場市社会福祉協議会（以下、御殿場社協）主催で運転ボランティア入門講座を開催、受講者に運転ボランティアとしての活動を勧めて会員になってもらった。運転ボランティア入門講座は年1回（発足当初は年2回）実施、講座の告知は御殿場社協の広報紙「ひだまり」、御殿場市報、ホームページ、地方新聞（無料で掲載）などの媒体を使って行っている。
- ・ 運転ボランティアたんぼぼ（以下、たんぼぼ）発足当初は、運転ボランティア会員募集のチラシを市内のスーパー、個人商店を回って掲示してもらった。チラシを見て来てくれた人も多かった。
- ・ たんぼぼは、自分で乗降できる方へのサービス提供を基本としている。自分たちはボランティアであり、（一部の運転者を除いて）ヘルパーなど専門的な資格を持っていないので、車いす乗降を除き、乗降介助や荷物の積み下ろしなどは行っていない。利用者から申し出がある、もしくは運転者が必要であると判断した場合は介助等対応している。



たんぼぼの運行車両「ふくっぴー号」



早川会長（左）と大窪副会長（中央）、御殿場社協の長山さん（右）

② 新規利用者登録は御殿場市社会福祉協議会が担当、予約・配車はたんぼぼの会員が担当

- ・ 新規の利用者登録などの事務作業は御殿場社協にお願いしている。利用希望日に合わせて運転者をマッチングする業務を行うコーディネーターは現在14名、たんぼぼの会員が月に1回程度担当している。コーディネーターの稼働日（予約受付日）は月・水・金の3日間で、1ヶ月～1週間前までの予約を受け付けている。コーディネーターも運転者同様、無償ボランティアで、会長はじめ役員も業務を担当している。

③ 利用登録者は現在約210名、社協および市の広報で募集

- ・ 御殿場社協、御殿場市の広報、ホームページなどで利用者を募集。利用者本人やケアマネジャーから利用申請がある。たんぼぼの利用登録者、運転者からの紹介も多い。
- ・ 利用者は独居の高齢者で、自宅からバス停留所までの移動が困難な方、車いす利用の方など。

- ・ 利用登録者は 210 名、約 6 割の方が実利用者で、利用頻度が異なる。月平均にすると概ね 50 件程度の送迎を行っている。

④ 社協とボランティア団体の共同運営

- ・ 運転ボランティアたんぽぽは、大きく以下の役割で運営されている。
3 役（早川会長、大窪副会長、杉山副会長）⇒ 決裁者、コーディネーター（予約配車管理）
コーディネーター（14 名）⇒ 予約配車管理
御殿場社協 ⇒ 新規利用者募集・登録、運転ボランティア入門講座（現在は福祉車両運転者講習）の開催、受講者募集

(2) 社協のサポートもあり、安定的とはいえないがここまで大きな危機もなく移動サービスを継続できている。2020 年には御殿場市主導の買い物支援プロジェクトへ協力。

① 利用者はピーク時に比べ半減、運転者は 50 名前後を維持しているが、活動への参加率が低い

- ・ 介護保険法施行（2000 年）に伴い、地域のケアマネジャー、ヘルパーからの利用者紹介が多くなった。2・3 年前までは利用者が増加傾向だったが、最近では若干減少してきている。依頼が多いときは月に 110 件程度の予約があったが、現在は 50 件程度に減少している。
- ・ 減少の理由としては、介護度が上がり施設入所された方や、亡くなられた方がいるのではないかと考えている。実際利用登録者、運転者に送付しているたんぽぽの広報紙「たんぽぽだより」も約 250 件に発送して 20 件は宛所不明で戻ってきている。不達の状態が続く場合は名簿から削除している。利用できなくなったことについて、本人・家族などから連絡があることはごく稀で、たんぽぽには連絡が来ない。
- ・ 運転者については発足当初、運転ボランティア入門講座に現役の病院職員、施設職員など 120 名を超える受講者がいたが、現職の方が多く、運転者として活動する方は 20 名程度だった。
- ・ 現在は 52 名の運転者登録があるが、実際活動しているのは 1/3 程度で、活動頻度も少ない人が多い。年 1・2 回の人もある。供給が足りない部分は中心メンバーで補っている。安定的とはいえないが、運転者登録が 50 名を超えれば何とかやっていける。高齢で退会される方もいるので、運転ボランティア入門講座（現在は福祉車両運転者講習）などを通じて募集を継続する必要がある。ボランティアなので強制はできないため、予約申し込みに合わせてコーディネーターが運転者へ連絡して活動をお願いしている。

② たんぽぽの活動を軸に買い物支援プロジェクトが始動、御殿場市・御殿場社協の協力で運行車両も確保できている。

- ・ たんぽぽの初代会長（鈴木 栄一氏）は高齢で健康上の理由から退会、現在の早川会長は 2 代目でたんぽぽ発足メンバー。
- ・ たんぽぽの協力のもと、2019 年 7 月に玉穂地区中畑北にて「玉穂買い物支援プロジェクト」が始まり、2020 年 9 月には大窪副会長を中心に御殿場市北久原地区に新たな移動サービス事業「北久原移動支援プロジェクト ひまわり」がサービスを開始。社会福祉法人十字の園が保有する福祉車両を、使用していない時間帯に借り受け、運転ボランティアがスーパーまで送迎する買い物支援を実施している。
- ・ 運行車両は御殿場社協保有の 3 台。そのうち 1 台は御殿場市から貸与を受けているキャラバン（リフト車）で、2019 年 10 月に同車種新型車両に代替している。2013 年には御殿場社協所有の

ラウム（スロープ車）をシエンタ（スロープ車に代替）、に代替。車両購入資金の一部として 80 万円を目標に寄付を募り、91 万円の寄付金を集めた。御殿場社協のキャラクターと寄付支援者の名前をラッピングした「ふくっぴ一号」として運行している。

③ 御殿場社協を通じて御殿場市の取り組みにも関わりを持つように

御殿場市社会福祉協議会

発足時より市の予算で運転ボランティア入門講座を開催していたが、2019 年度より、福祉車両運転者講習（国土交通大臣認定）を実施している。（2020 年度より、市から受託している生活支援体制整備事業の一環として予算化）

御殿場市健康福祉部社会福祉課（福祉有償運送の担当課）

御殿場社協へ福祉車両の貸与を行っている。また福祉有償運送ではないが、毎年の利用実績報告を行っている。

御殿場市健康福祉部長寿福祉課

これまで御殿場社協で開催していた運転ボランティア入門講座に代えて、2020 年度から国土交通大臣認定の福祉車両運転者講習を開催するようになった。（2019 年度は御殿場社協が開催）

④ 運転ボランティア入門講座（現在は福祉車両運転者講習）を通じて運転者を安定的に確保できていることがサービス継続最大の要因、しかし担い手の高齢化が懸念になっている

- ・ 年 1 回の運転ボランティア入門講座（2020 年度を以て終了、2021 年度より福祉車両運転者講習に一本化）で運転者を確保している。2020 年はコロナ禍ではあったが、7 月に開催。定員 15 名に対して 10 名の応募があり、6 名が運転ボランティアに登録した。しかし運転者の稼働人数、日数が少ないため、会長・副会長が複数回の送迎をこなしている、
- ・ 現在においては運転者、役員の高齢化が懸念事項。運転ボランティアに 1 日に複数回の送迎を依頼しても、年齢により安全運行に自信が持てないという理由で、対応してくれる運転者が少なくなってきた。
- ・ 運転ボランティアの活動頻度が少ないので、車いす利用者対応の機器操作など、一度研修したことを忘れてしまい、対応ができる人が少なくなってきた。
- ・ 現在 76 歳の早川会長の後継者もない状況で、現在抱えている課題を整理すると、ある意味現在からこの先数年に渡り、持続化の危機を迎えている状況といえる。

(3) コーディネーターの負担軽減と運転者の稼働率向上が大きな課題、活動を負担に感じている状況では絶対に持続することはできない。

① コーディネーターはマッチングに苦慮、1 日 5 回の送迎を行う運転者も…

- ・ コーディネーターの業務負荷が大きい。1 件の予約に対して、対応可能な運転ボランティアをマッチングするのに 15 件近く電話で打診することもある。活動できるスケジュールを事務局に FAX してもらおうと運転ボランティアにお願いしているが、協力を得られない。運転ボランティアの活動頻度に差があるので、依頼が多いときは役員が 1 日に 5 件の送迎を行うこともあった。運転者の稼働をどう上げていくかが課題。
- ・ 活動を負担に感じている状況では絶対に持続することはできない。あきらめずに続けること、自分が動けなくなっても後に誰かが続いてくれる。そういう環境、風土ができれば持続できる。

② 早川会長より後発の移動支援団体と中間支援組織に向けたメッセージ

- ・ 運転者ボランティアとして、まったく知らない人を送迎することへの抵抗感や不安感は一それぞれにあると思う。ボランティア活動保険や送迎サービス補償など、安全をしっかりと担保すれば、あとは気持ちの問題だけ。みんな今まで誰かに支えられて生きてきている。支えてくれた人に恩返しをする気持ちで、移動サービスに取り組んで欲しい。
- ・ 2019年度より NPO 法人かながわ福祉移動サービスネットワークに福祉車両運転者講習を委託、情報提供をしてもらっている。今後も移動サービスに係る情報提供をお願いしたい。

2. 運営団体とのかかわりの深い支援者、利用者、利用家族等

【佐藤 様（利用者）】

佐藤さんは、一人暮らしの女性、杖歩行の方で、今回許可を得て自宅から通院先のフジ虎ノ門整形外科病院まで同行させていただいた。



フジ虎ノ門整形外科病院まで送迎



注意深く降車を見守る早川会長（自立乗降が基本）

① たんぽぽは大変便利、でも何度も利用するのは申し訳ない…

移動サービスにかかわるようになったきっかけは？

- ・ 御殿場社協のケアマネジャーからの紹介で利用を開始した。

どのように利用しているのか？

- ・ た月に1回利用していたが、現在はコロナの影響で3ヶ月に1度の頻度で通院に利用している。

運行団体に対する評価、希望や期待、問題意識や不満、今後の方向性に関するご意見

- ・ 病院まで路線バスを使って移動すると、バスを2台乗り継いで1時間半ほどかかる。たんぽぽを利用すると5分程度で移動できるので大変助かっている。通院以外の外出ではたんぽぽの利用はしていない。デイケアセンターにはタクシーで、買い物は近所のショッピングセンター「エピ・スクエア」の宅配サービス（月2回）を利用している。
- ・ たんぽぽは大変便利だが、何度も利用するのは申し訳ない。

利用できなかったらどうだったか？

- ・ たんぽぽを利用する前は、通院に時間がかかり大変だった。

【長山様（御殿場市社会福祉協議会 地域福祉課 主事補）】

① たんぽぽの現状を考えると増車・サービスの拡充は難しい

どのような関わりがあるか？

- ・ たんぽぽと協働の立場で新規利用者登録などの事務局業務、運転ボランティア入門講座の開催で、運転者募集、利用告知をしている。
- ・ 福祉車両貸出事業の一環として、ガソリン代、車検・点検整備費などの費用を負担している。(御殿場市から貸与されているキャラバンの車検・点検費用は御殿場市社会福祉課が負担)

運行団体に対する評価、希望や期待、問題意識や不満、今後の方向性に関するご意見

- ・ 今後も必要なサービス、高齢化に伴い需要も高まっていく見通しがある。社協で台数を増車して拡充することについては、担い手(たんぽぽの運転者)不足とコーディネーターの配車業務に負荷がかかるので、今の段階では考えていない。
- ・ 運転ボランティアの人数維持については、2020年度以降は、まずたんぽぽに入会してもらい、活動を通して運転者となってもらえるよう、働きかけをしている。
- ・ 北久原地区に立ち上がった「北久原移動支援プロジェクト ひまわり」のように、たんぽぽの運営ノウハウを生かして、住民主体で横展開していくのをサポートしていきたい。

3. 運転者(ボランティア) 【横山様・大窪副会長】

横山さんは70歳、運転ボランティアとして年に1・2回程度運転者として活動している。大窪副会長のコメントで一部回答に当たる内容があったため、記載している。

① 活動に加わることで、今まで見えなかった人と人のつながりを教えてもらった

移動サービスにかかわるようになったきっかけは？

- ・ 岳麓新聞(地方新聞)で福祉車両取り扱い入門講座の告知を見て、申し込んだ。講座終了後、運転ボランティアたんぽぽの勧誘があったので、参加した。
- ・ 福祉車両取扱い入門講座に参加したのは、足が不自由な母のサポートを考えていたから。運転ボランティアとしての参加は、退職して時間があつたということもあるが、もともと在職中からボランティアサークルで活動していて、ボランティア活動に興味・関心が高かった。

運行団体に対する評価、希望や期待、問題意識や不満、今後の方向性に関するご意見

- ・ 活動に参加してから分かったことだが、母が参加していた在宅介護の会の定例会会場までの送迎をたんぽぽが担当していた(当時は在宅介護の会が送迎していると思っていた)。活動の幅が広いことに驚いた。
- ・ 広報紙「たんぽぽだより」が素晴らしい。ボランティアは裏方のイメージが強いが、「たんぽぽだより」はカラーでしっかり作られている。ボランティア活動のイメージが変わった。
- ・ 一泊旅行、ボーリング大会、バーベキューなど、ボランティア同士の親睦に力を入れているところも評価できる。
- ・ 忙しい毎日を過ごしているが、とても充実している。(大窪副会長)

お知り合いやご友人をこの活動に誘ったことがあるか、誘ってもいいと思うか？

- ・ 活動に加わったとき、すでに自衛隊出身者が何名かいたので、自分も隊友会(自衛隊OBの会)で後輩を誘って活動に加わってもらった。(大窪副会長)

地域の人たちとのかかわり方の変化はあったか？またやりがいを感じていることはあるか？

- ・ 活動に参加して、私の父と母が早川会長に送迎でお世話になっていたことを知り、恩返しがしたいと思った。たんぽぽに加わって、今まで見えなかった人とのつながりを教えてもらった。
- ・ ボランティア会員同士親睦を深めることができた、最後の一泊旅行は私が企画担当だった。たん

ぼぼに参加していなければこれだけ多くの人とつながることはなかった。

- ・ 行政区長や市議会議員の方が活動に参加されていると知って、たんぼぼの活動意義を再認識した。自分も元気できるうちは活動を頑張りたい。
- ・ 「ありがとう」という感謝の言葉で報われる。それが一番のやりがい。

4. 運行団体とかかわりの深い行政関係者

【岩岡課長・宮代副参事・石田副主任（御殿場市健康福祉部 長寿福祉課）】

① 高齢者の移動支援については「御殿場市高齢者等タクシー及びバス利用料金助成事業」で対応、2019年には静岡県の高齢者等移動支援モデル事業に参加

- ・ 御殿場市の人口は 88,268 人、高齢者数 21,648 人（内 75 歳以上：10,938 人）、高齢化率 24.5%、要介護認定率 14.5%という状況。※要介護認定率のみ 2019 年 9 月実績、その他は 2019 年 10 月実績
- ・ 要介護認定者全体に占める各区分の割合は、要支援 1（11.7%）、要支援 2（9.6%）、要介護 1（24.9%）、要介護 2（15.3%）、要介護 3（14.8%）、要介護 4（15.1%）、要介護 5（8.6%）となっている。 ※2019 年 10 月実績
- ・ 移動に関して高齢者が困っているという現状はかなり前から認識していたが、なかなか具体的な施策につながっていなかった。その状態を打破すべく 2019 年度の、静岡県の高齢者等移動支援モデル事業に手を挙げた。
- ・ 市内の公共交通は民間の路線バス、タクシー及び JR 御殿場線によって構成。路線バスは事業者単独では継続困難な路線が多いため、行政が支援する形で路線の確保維持を図っている。
- ・ 移動手段を持たない高齢者等の交通弱者に対しては、バス及びタクシー利用料金助成制度により外出支援を実施。年間最大 10,000 円分のバス・タクシー（介護タクシーを含む）利用助成券を交付している。もともとバス・タクシー利用助成券の取り扱いが公共交通担当部署がおこなっていたが、利用者の大半が高齢者ということもあり、長寿福祉課に移管された。
- ・ バス・タクシー利用助成券の交付対象者数（70 歳以上で一定の要件を満たす方）と利用率は以下の通り。
 - 2017 年度（H29）…対象者 1,182 名（利用率：83.7%）
 - 2018 年度（H30）…対象者 1,371 名（利用率：84.4%）
 - 2019 年度（H31・R1）…対象者 1,504 名（利用率：81.9%）
- ・ 助成事業に対して高齢者からは、バスの本数が少ないことや、バス停まで歩いていくことが困難、等の意見がある。また、バス・タクシー利用助成券についても郊外から市街地への移動に使用するとタクシーで片道 2,000 円程度かかるので、十分とはいえない。またコロナ禍で交通事業者の経営が厳しくなり、バスの運行本数が間引きされていて、移動困難者にとってさらに厳しい状況になっている。

② たんぼぼに対する積極的な関わりはないが、市の移動支援事業に社協を通じて間接的に協力してもらっている。

- ・ たんぼぼは平成 6 年（1994 年）から事業を開始したと聞いているが、事業開始に至った経緯等は把握していない。（御殿場社協によると、事業開始は平成 8 年（1996 年）となっている。）
- ・ 取り組みの概要は 3 台の福祉車両を活用し、自力での外出が困難な高齢者や障害者を運転ボランティアたんぼぼの会員が買い物や通院で送迎するというもの。利用登録者は 210 名で、令和元年度の稼働実績は 695 件。

- ・ 運転ボランティアたんぽぽ自体の活動は行政計画に載せていないが、活動に関わる部分として、現在策定中の「御殿場市第9次高齢者福祉計画及び第8期介護保険事業計画」内の「高齢者を支えるボランティア活動の支援」「交通弱者への外出支援」という部分が該当する。たんぽぽの活動以外では、市が支援している移動サービス創出支援事業について、行政計画に目標等記載される予定。また、長寿福祉課の管轄ではないが、御殿場市地域公共交通計画においても移動支援事業（運転ボランティア）について取り上げる予定。（所轄は企画部未来プロジェクト課…令和元年度の移動サービス創出支援事業をきっかけに連携を強化）
- ・ 公共交通担当部署とは、モデル事業がきっかけで、「公共交通でカバーできない部分は福祉で補う。」という認識を共有していて、連携がとれている。
- ・ たんぽぽの活動は外出困難な高齢者や障害者の生活の利便性を向上させていると認識している。

③ 市は福祉車両を御殿場社協に1台貸与、2019年より福祉車両運転者講習の開催を委託

- ・ 2001年より福祉車両を御殿場社協に1台貸与、2019年10月に車両を更新している。社会福祉課の担当より、貸与開始にあたっては車椅子友の会など複数の団体から要望があったと聞いている。
- ・ 運転ボランティア養成に関し、これまで御殿場社協が運転ボランティア養成講座を実施してきたが、2019年（令和元年）12月に静岡県から受託したモデル事業の一環として福祉車両運転者講習（国土交通大臣認定）を実施。2020年（令和2年）以降も社協が運転ボランティア入門講座と並行して、活支援体制整備事業（御殿場市から御殿場社協に委託）の一環として福祉車両運転者講習を実施している。2021年（令和3年）より運転ボランティア入門講座を廃止して、福祉車両運転者講習に一本化する予定。

④ 移動サービス創出支援事業を通して、高齢者が外出する意義を感じている

- ・ 客観的なデータはないが、様々な研究でも明らかにされている通り、高齢者が外出することによりフレイル予防になると考えている。2019年度に静岡県のモデル事業となった、高齢者を買い物にお連れする事業（移動サービス創出支援事業）において、利用者から「実際に物を見て選ぶのがうれしい」等の声があり、サービス利用者同士が楽しそうに話しているのを見るにつけ、高齢者が外出する意義を感じている。
- ・ 地域振興面での効果検証は行っていない。自治体が行う公助には限界があり、また高齢化・高齢者単独世帯が増加していく中、住民同士で支え合うサービスは今後ますます重要になると考えている。

⑤ 福祉車両運転者講習の開催費用（受講料を含む）は、生活支援体制整備事業の事業費より市が負担することで、担い手の確保を促進

- ・ 移動支援が必要な利用者数、移動サービスに必要な担い手数について、御殿場市では推計をとっていない。移動支援が必要だという高齢者の声は聞こえてくるが、数を把握できていない。データの収集は今後の課題。
- ・ 担い手の育成については2019年度と2020年度に実施した福祉車両運転者講習の申し込みも多く、2019年は35名、2020年は20名で定員に達し、キャンセル待ちが出るほどだった。御殿場社協とたんぽぽで実施していた運転ボランティア養成講座の参加率が悪くなってきていたので、2021年度以は年2回の福祉車両運転者講習開催を計画している。開催にかかる費用は生活支援体制整備事業の事業費より市が負担している。受講者の費用負担はなく、無料で受講できる。

⑥ 福祉車両運転者講習を活用して運転ボランティアを育成

- ・ 今後、移動支援を必要とする方は増加すると考えている。当市は生活支援体制整備事業を御殿場市社会福祉協議会に委託しており、その一環として福祉車両運転者講習を昨年（2020年）から実施している。講習は好評で今年は応募人数に数日で達し、キャンセル待ちが出るほどだった。今後はニーズに見合うだけの担い手を育成できるかが課題となる。
- ・ 地域で活躍する意欲のある方を運転者講習につなげ、ボランティアを育成し、事業とマッチングさせる生活支援コーディネーターの役割が非常に重要であるととらえている。
- ・ 生活支援体制整備事業として、運転者講習の他に社会福祉法人の車両の借り受け、地域の運転ボランティアの運転で、買い物支援に活用する取り組みを始めている。現在市内2か所で取り組みが実施されている。
- ・ 担い手の確保という点では、今後運転者講習を活用して、修了者に買い物支援プロジェクトやたんぽぽの運転者になってもらうよう働きかけを行っていく。

⑦ 「社会福祉法人の車両×運転ボランティア」の事業モデルを他の地域でも展開したい

- ・ 運転ボランティアたんぽぽについては、財政的な支援を行うことは難しいが、何らかの体裁で市の評価、計画の位置づけが必要だと考えている。そうすることで活動をより魅力的なもの、やりがいを感じるものにしていきたい。
- ・ 静岡県モデル事業として取り組んだ「社会福祉法人の車両×運転ボランティア」による買い物支援事業は、今後他の地域でも展開していきたい。
- ・ （北久原移動支援プロジェクトの中心人物で、たんぽぽ副会長の大窪さんが、社会福祉法人の車両ではデイスターの送迎の時間帯の利用ができないことから、将来的に御殿場財産区の財源を使って専用車両を購入、福祉有償運送事業を展開していきたいという構想について…）ゆくゆくはそのような形態になっていく方が良いかもしれない。
- ・ 高齢者に対する移動支援の必要性について、もっとニーズを把握する必要がある。そのためには「高齢者の保健事業と介護予防の一体化事業」の取り組みによるデータをはじめ、様々なデータを収集、分析していかなければならない。
- ・ 情報の収集という点では、静岡県の移動サービス後方支援体制整備事業を利用し、全国移動サービスネットワークがアドバイザーになってくれているのは大変助かっている。ここ2年間で、御殿場市は、移動支援の分野について急激にレベルが上がってきている。